

自衛消防訓練大会

種 目 要 綱

令 和 6 年 改 訂 版

湖 南 防 火 保 安 協 会

は じ め に

この自衛消防訓練大会は、初期消火技術の向上と防火意識の高揚を目的として、昭和50年10月15日に綾羽工業(株)草津工場にて第1回自衛消防競技が実施され、その後、平成17年の大会において「競技大会」から「訓練大会」に名称を変更し、本年度で48回目を迎えようとしています。

以来今日まで、自衛消防訓練大会を継続してきたことにより、回を重ねるごとに消火技術の向上は目覚ましいものがあります。

しかしながら火災、地震、その他災害等は、いつどこで発生するか予測できません。その中でも火災は、特に初動対応が大切で、火災を早期に発見し被害を最小限にとどめるため、その場にいる人の迅速かつ的確な行動が必要不可欠となってきます。そのためには、日々の訓練が大切です。人間は突発的に災害に遭遇するとパニックに陥りやすいもので、もし火災等が起こっても冷静に慌てずに行動できるよう、繰り返し訓練を実施することによって、体で覚えた行動が万一の時に役立ちます。

そして自衛消防訓練大会を継続していくことで、災害予防に関する知識の習得、技術の向上、保安体制の確立を図れ、更なる企業防災の向上に繋がります。

このことから、消火技術の更なる向上のため自衛消防訓練大会種目の要綱を改正しました。改正背景としては、令和5年4月に滋賀県消防操法訓練大会操法実施要領が全部改正されたことから、小型動力ポンプの部を全部改正し、それにならび屋内消火栓操法の部および屋外消火栓操法の部を全部改正しました。また、自衛消防訓練大会各種目の他に統一事項が多数あったことから要綱に組み入れたものです。

最後になりましたが、長年にわたり湖南防火保安協会会員事業所の皆様には企業防災に御尽力いただき感謝申し上げます。

今後とも災害発生時の自助、共助、公助の重要性について認識を強め、湖南防火保安協会会員一同が湖南地域の安全安心な街づくりに、お力添え賜りますようお願い申し上げます。

【 目 次 】

1 消火器の部

(1)	訓練規定	・・・・・・・・・・	1
(2)	審査規定	・・・・・・・・・・	1
(3)	実施要領 ※順番	・・・・・・・・・・	2
(4)	全体図	・・・・・・・・・・	3
(5)	詳細	・・・・・・・・・・	4
(6)	標的詳細	・・・・・・・・・・	5
(7)	消火ライン詳細	・・・・・・・・・・	5－1
(8)	審査表	・・・・・・・・・・	6
(9)	時計審査表	・・・・・・・・・・	7

2 屋内消火栓操法の部

(1)	訓練規定	・・・・・・・・・・	1
(2)	審査規定	・・・・・・・・・・	2
(3)	全体図	・・・・・・・・・・	3
(4)	操法実施要領	・・・・・・・・・・	4
(5)	総合動作審査表	・・・・・・・・・・	5
(6)	計時審査表	・・・・・・・・・・	6

消 火 器 の 部

湖 南 防 火 保 安 協 会

消火器の部

【訓練規定】

1 使用器具等

消火器は、支部で準備した水消火器を使用する。

装備品は、ヘルメット、手袋、警笛、強力ライトとし、出場者で準備する。

ただし、準備できない場合は支部で準備したものを使用する。

※警笛、強力ライトは、首または肩に掛けられるものとする。

※手袋は、革手袋・軍手等指定しないが、皮膚が露出しないものとする。

2 服 装

出場者の服装は、訓練に適したもので、長袖・長ズボンとし、袖は手袋をはめた状態で皮膚が見えない長さ、ズボン裾、靴下は皮膚が見えない状態であること。靴は、訓練に適した運動靴（安全靴可）とする。

3 訓練要領

別に定める消火器操法訓練要綱のとおりとする。

4 進 行

スタートラインに整列し、スターターのピストルの合図によりスタートする。

5 風 向

風向はスタート側から標的方向とし、退出路はスタート側とする。

【審査規定】

1 審査範囲

(1) 操法動作審査

全体動作に係る、各操作等の行動が適しているか否かの事項および総合的な事項について審査する。

スターターのピストルの合図から「消火完了報告」までとする。

(2) 所要時分審査

基準タイム60秒とし、スターターのピストルの合図から全ての標的が落下した時までを計測する。

2 失格等

(1) 出場時にスタートラインに整列しない場合は、失格とする。

(2) 出場者が搬送してきた消火器と従業員③が搬送してきた消火器、計2本の消火器で標的を落とせなかった場合は失格とする。

(3) 訓練実施中、出場者に不測の事故が発生し、訓練の続行が不可能と認められる場合は、審査長の判断により「中止」または「再訓練」を決定する。

3 入賞の決定

基準タイム内にゴールし、審査項目の否がない出場者を入賞とする。

また、同点数の場合は、所要時分の速い者を上位とする。

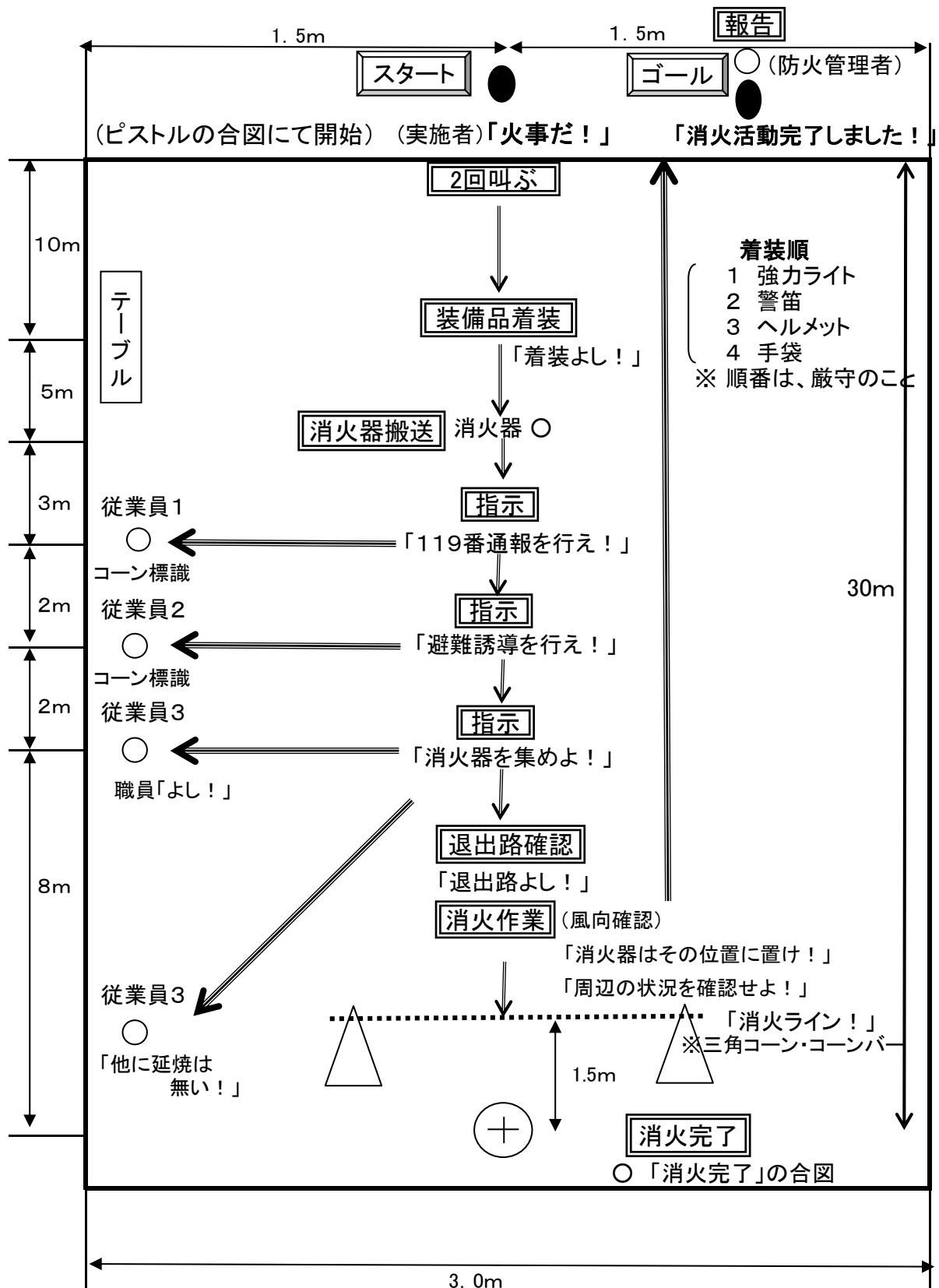
消 火 器 の 部 (操 法)

1 実施人員 1名

2 実施要綱

項 目	要 綱	係 員
スタート	ピストルの合図により開始する。	
	「火事だ！」と大きな声で2回叫ぶ。	
装備品着装	装備品を確実に強力ライト、警笛、ヘルメット、手袋の順に着装し、「着装よし！」と呼称する。	
消火器携行	消火器を携行搬送する。	
指示	「火事だ！」を聞きつけ駆けつけた従業員に指示を与える。	
	119番通報を指示する。 「119番通報を行え」	従業員① (コーン標識)
	避難誘導を指示する。 「避難誘導を行え」	従業員② (コーン標識)
	消火器の搬送を指示する。 「消火器を集めよ」	従業員③ (職員「ヨシ」)
退出路確認	「退出路よし」と指差し確認呼称する。	
消火	消火器を操作して消火作業を行う。 (三角コーン・コーンバー設置側から)	
指示	消火器を搬送してきた従業員③に指示を与える。	従業員③ 「消火器準備 ヨシ」
	「消火器はその位置に置け」「周辺の状況を確認せよ」	従業員③ 「ヨシ」
消火完了	周囲の状況を確認した従業員から、「他に延焼は無い」と報告を受ける。	従業員③ 「他に延焼は 無い」
	係員から「消火完了」の合図を受けスタート地点へ戻る。	消火担当係員 「消火完了」
報告	防火管理者に消火完了報告。 「消火活動、完了しました」	防火管理者 「ヨシ」

消火器の部全体図

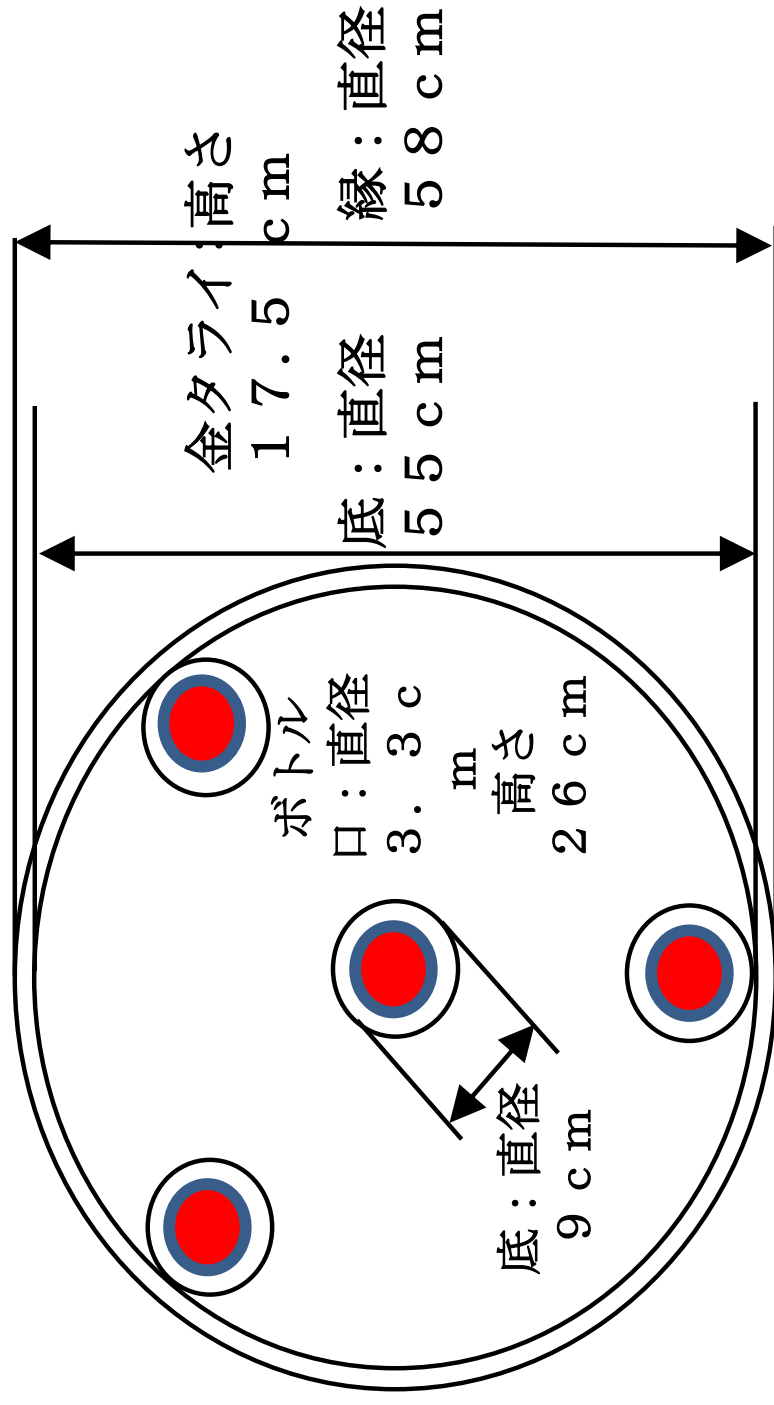


消 火 器 の 部 詳 細

- ・ 標的は、アルミボトル缶の上にボール（野球軟式ボールA球）を置いた物を4本とし、標的落下は4本全てのボールを落とした時点とする。
- ・ 出場者はスタートの合図の後、スタート位置にて火災発生を周りの人に知らせるため“明らかな大声”で「火事だ！」と2回叫ぶ。
- ・ 装備品（ヘルメット、手袋、警笛、強力ライト）は、コース備え付けのテーブルに準備するが、置く位置は自由とし、着装順は強力ライト・警笛・ヘルメット・手袋の順とする。また、着装が完了した時点で「着装よし！」と呼称する。
- ・ 警笛および強力ライトは、同時に着装することなく首もしくは肩に掛け、消火器搬送の支障にならないようにする。（強力ライトと警笛を同時に着装した場合は、着装不適とする。）
- ・ 強力ライトよし」「警笛よし」「ヘルメットよし」「手袋よし」とそれぞれに呼称して着装しても採点対象外とするが、最後に「着装よし！」の呼称をすること。
- ・ 「火事だ！」の呼び掛けを聞きつけ駆けつけた従業員を所定の位置に待機させる。
- ・ 指示する従業員3名のうち、「119番通報」と「避難誘導」の従業員をコーン標識に代え、「消火器収集」の従業員③は担当者を充てる。
- ・ 従業員①・②・③に指示をする時は、必ず従業員①から③の範囲の前で1度停止し、指示を行うこと。なお、指示をする場合は従業員に対し指差しにて行うか、従業員それぞれ3人の方向に顔を向けて行う。
- ・ 消火ラインとして設定されたコーンバーの前で止まり、退出路方向を確認後、「退出路よし」を指差し確認呼称し、消火器を地面に降ろしてから、「消火器の操作」である「安全ピン」を抜く。
- ・ 呼称前に消火器を置いてもいいが、消火器を持ちながらピンを抜くことはいけない。
- ・ 消火位置は、標的の中心から1.5m地点に、消火ラインとして設定されたコーンバーの外から行う。
- ・ 「消火器収集」の指示を受けた従業員③は、指示を受けた後、付近に設置されている消火器を持ち、消火している出場者の約1m後方まで搬送し、標的が落下した時点もしくは消火器の水がなくなった時点で「消火器準備よし！」と出場者に報告する。
- ・ 従業員③の「消火器準備よし！」と消火器搬送報告を受けたら、従業員③の方向に顔を向け、「消火器はその位置に置け！」と指示し、標的が落下していなければ消火を継続し、消火が完了していれば、「周辺の状況を確認せよ！」と指示する。
- ・ 上記指示を受けた従業員③は、周囲を指差し確認し、「他に延焼は無い！」と出場者に報告する。
- ・ “消火”担当係員は、上記報告完了を確認したら「消火完了」と赤旗等で合図する。
- ・ 出場者は、「消火完了」の合図を確認した後、スタートラインに戻り、防火管理者に「消火活動完了しました！」と報告し訓練を終了する。
- ・ 指示や報告の言葉は、目的を明確にした言葉なら要領に類似した言葉でも良い。ただし、言葉が早すぎたり、声が小さく聞き取りにくければ「指示不適」となる。
- ・ 三角コーンやコーンバーを転倒や落下させた場合は危険行動として「行動不適」とする。

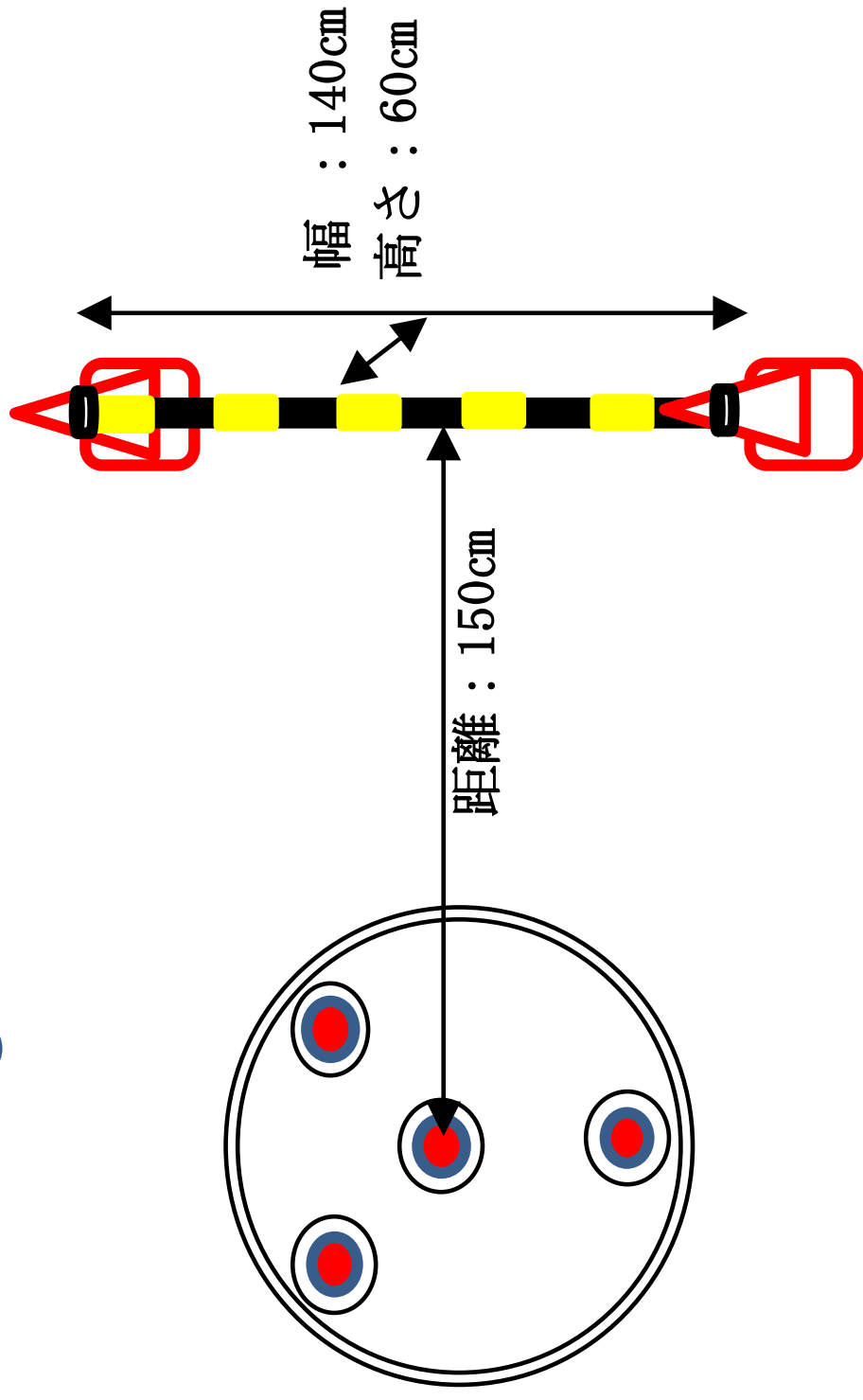
消火器の部 標的詳細

標的：●軟式野球ボールA球



消火器の部 消火ライン詳細

標的：● 軟式野球ボールA球



消火器の部審査表

組		コース		事業所		氏名	
						審査員氏名	

	項目	適否
操作項目	「火事だ！」と大きな声で2回叫んだか。	適 ・ 否
	装備品を確実に着装し、「着装よし」の呼称をしたか。	適 ・ 否
	119番通報を指示したか。	適 ・ 否
	避難誘導を指示したか。	適 ・ 否
	消火器の搬送を指示したか。	適 ・ 否
	退出路を確認したか。	適 ・ 否
	消火器操作は適正か。（その場に置いて、安全栓を抜く、ホースを火元に向ける、レバーを握る）	適 ・ 否
	消火姿勢は適正か。（安定した姿勢で操作したか）	適 ・ 否
	消火の位置は適正か。（消火ラインのコーンバー外から消火したか）	適 ・ 否
	追加消火器の位置を指示したか。（風上に指示したか）	適 ・ 否
	周囲の状況確認を指示したか。	適 ・ 否
	報告は適正か。	適 ・ 否
適の数		/12
総合	安全性はどうか。（器具の落下や踏みつけ等、服装の乱れ、転倒）	適 ・ 否
	確実性はどうか。（要領遵守の動作であるか、指示が明確であるか）	適 ・ 否
	迅速性はどうか。（各動作の流れ、タイム計測外での手抜き等）	適 ・ 否
	士気・規律はどうか。（声の大きさ、誇張など不要な態度等）	適 ・ 否
適の数		/4
総合点合計		/16

計時員 1	計時員 2
秒	秒

平 均
秒

消火器の部計時審査表

組		コース		事業所		氏名	
---	--	-----	--	-----	--	----	--

審査員氏名		
-------	--	--

計 時 員 1	計 時 員 2

平 均 タ イ ム

★ スタートの合図(ピストル)から標的(ボール4個)が全て落下するまでの
タイムを記入して下さい。

★ 小数点第2位まで記入して下さい。

★ 平均タイムは、集計係が記入します。

屋 内 消 火 栓 操 法 の 部

湖 南 防 火 保 安 協 会

屋内消火栓操法の部

【訓練規定】

1 使用器具等

使用器具は、備え付けの屋内消火栓ボックスを使用する。
消防ホース、筒先は出場事業所で準備する。
使用消防ホースは、内径40mm長さ15mのものを2本使用する。
筒先ノズル口径は、13mmとする。

2 服 装

出場隊員の服装は、操法に適したもので長袖・長ズボン・手袋とし、袖は手袋をはめた状態で皮膚が見えない長さ、ズボン裾、靴下は皮膚が見えない状態であること。
手袋は、革手袋・軍手等指定しないが、皮膚が露出しないものとする。
靴は運動靴（安全靴可）とし、ヘルメットを着用すること。

3 操作要領

別に定める屋内消火栓操法要綱のとおりとする。

4 進行合図（赤旗）

出場準備	出場準備係は、「出場準備」と声を出して赤旗を下げる。
操作開始	スタート係のピストルの合図によりスタートする。
標的転倒	標的係は、標的が転倒したならば赤旗を下げる。
放水止め	標的係は、「放水止め」と声を出して赤旗を下げる。
排水完了	標的係は、1番員の前方で「排水止め」と声を出して赤旗を正面斜め前方に振る。
納 め	標的係は、「納め」と声を出して赤旗を下げる。

5 準 備

ボックス内にホースを納める際、進行をスムーズにするため、出場前に指定の箱にホースを折り畳み準備する。

【審査規定】

1 審査範囲

(1) 総合動作審査

出場隊の全体動作に係る、共同操作の不整一および操作の不確実な行動について審査する。(100点満点)

待機線上に整列した時点から「別れ」まで。

(2) 所要時分審査

基準タイム30秒とし、スターターのピストルの合図から、標的が転倒した(標的係が赤旗を下ろした)時までを計測する。なお、所要時分

(1秒につき1点)を総合動作審査点から減点する。

2 失格等

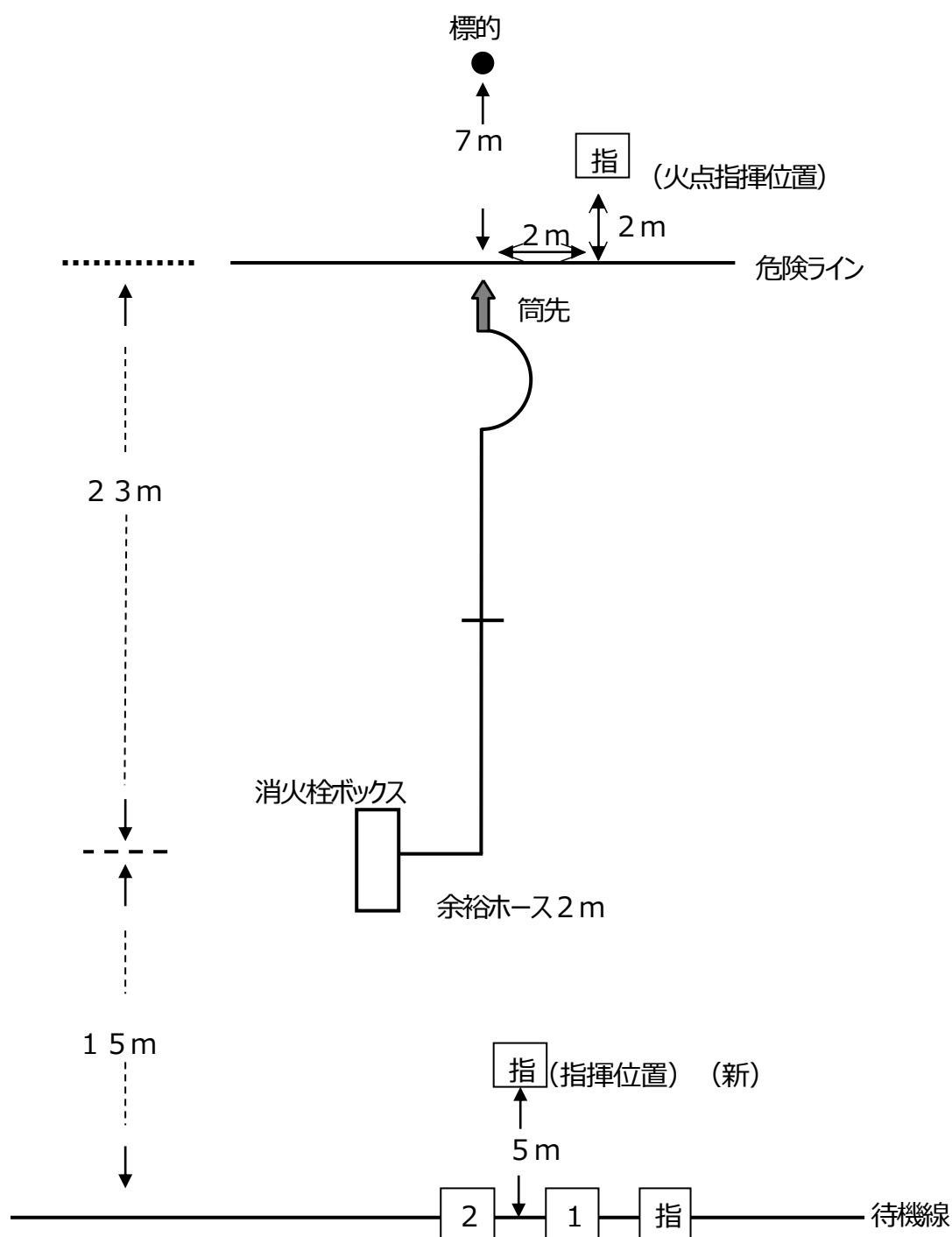
(1) 出場時に待機線に集合しない場合は、失格とする。

(2) 訓練実施中、出場者に不測の事故が発生し、訓練の続行が不可能と認められる場合は、審査長の判断により「中止」または「再訓練」を決定する。

3 順位の決定

総合動作審査の点数を持ち点とし、所要時分審査の減点数を減じて、持ち点70点以上で所要時分30秒未満のチームを入賞とする。また、その中から持ち点の多いチームを上位とする。同点数の場合、所要時分の速いチームを上位とする。

屋内消火栓操法全体図



屋内消火栓操法の部実施要領

	指 揮 者	1 番 員	2 番 員
待 機	係員の合図により待機線上の明示した位置に整列する。	係員の合図により待機線上の明示した位置に整列する。	係員の合図により待機線上の明示した位置に整列する。
ス タ ー ト	ピストルの合図の後、火点指揮位置に至り、火点を監視した後、隊員の活動が見える方向に向きを変え、隊員を監視する。	ピストルの合図の後、15メートル前方の消火栓ボックスまで至り、2番員と協力し、全てのホースを脇に抱えホース延長を行う。	ピストルの合図の後、15メートル前方の消火栓ボックスまで至り、1番員のホース延長操作を補助し消火ポンプ起動スイッチを入れ屋内消火栓ボックス前で不動の姿勢をとる。
放 水 始 め	1番員の注水姿勢を確認後、1番員の筒先補助を行う。 放水的中後、係員の合図により火点指揮位置に至り、標的の方向を向いて不動の姿勢をとる。	ホース延長中、ホース結合部が脇から落ちたら、2番員の方を振り向き「放水始め」と合図し、火点に至り5メートルの余裕ホースをとり注水姿勢をとる。 筒先を確実に保持し、標的に放水を的中させる。	1番員の「放水始め」の合図に対し右手を真上に上げて復唱の後、開閉バルブを全開し、放水が確実に行われていることを確認後、駆け足で1番員後方まで進み1番員の筒先補助を行う。
放 水 止 め	係員の赤旗の合図により、標的監視の姿勢から1番員の方向に向きを変え「放水止め」と号令し1番員が不動の姿勢をとった後、標的の方向に向きを変え不動の姿勢をとる。	指揮者の「放水止め」の号令に対し、「放水止め」と復唱し、2番員の「放水終わり」の合図で「よし」と呼称し、排水操作を行った後、係員の合図で左足を引き付け筒先を足元に立てて不動の姿勢をとる。	1番員の「放水止め」の復唱に対し、「よし」と呼称し、消火栓ボックス前に至り、開閉バルブを完全に閉め、確実に止まったことを確認後、駆け足で筒先補助位置に至り、不動の姿勢をとって「放水終わり」と呼称する。
収 納 ・ 解 散	係員の赤旗の合図により1番員の方向に向きを変え「納め」と号令し、指揮位置に至り、自身の服装点検を実施後、1・2番員の整列を確認した後に、「わかれ」と号令し、各隊員に挙手注目の敬礼で答礼する。	指揮者の「納め」の号令で筒先をその場に置き、2番員と共に駆け足で集合線に至り、服装点検後不動の姿勢をとり、指揮者の「わかれ」の号令で指揮者の方向に向いて挙手注目の敬礼を行い解散する。 ※方向転換しなくても良い	指揮者の「納め」の号令で1番員と共に駆け足で集合線に至り、服装点検後、不動の姿勢をとり指揮者の「わかれ」の号令で指揮者の方向に向いて挙手注目の敬礼を行い解散する。 ※方向転換しなくても良い

- ①ホースの落下については、ホース1本分を落とせば落下として減点（審査表「要領遵守度」1回2点減点）
 ②落下させたまま延長すればひきずりとして減点（審査表「要領遵守度」1本につき1回2点減点）
 ※ホースの延長時、ホース結合部が脇から落ちた後の「放水始め」の号令は走りながらしても良い
 ※ホースの延長は、脇に抱えて延長するようになっているが、落とさなければどんな搬送方法でも減点としない

屋内消火栓操法の部総合動作審査表 (男子・男女混成)

(組 コース)

隊名		氏 名	審査員		点数		検査員	
----	--	-----	-----	--	----	--	-----	--

項 目	A	B	項目合計 (A+B)
規 律 ・ 節 度 (動作の不整一)	適・否	2 0	(A) 否なら-5
敏 し ょ う 性	適・否	2 0	(A) 否なら-5
士 気	適・否	2 0	(A) 否なら-5
安 全 性 (つまづき、転倒、 危険ラインオーバー) 各 1 回につき 2 点減点する。	正の字でチェック	チェック×2 (A)	2 0 - (A) =
要 領 遵 守 度 (行動、操法の不確実) 各 1 回につき 2 点減点する。	正の字でチェック	チェック×2 (A)	2 0 - (A) =
合 計	/		

屋内消火栓操法の部計時審査表

(組 コース)

隊 名		審 査 員	
--------	--	-------------	--

計 時 員 1	計 時 員 2	平 均 タ イ ム

減 点

(基準タイムの経過1秒につき1点減点)

- ★ スタートの合図（ピストル）から標的が転倒するまでのタイムを記入してください。
- ★ 小数点第2位まで記入してください。
- ★ 平均タイムは、集計係が記入します。